

精神疾患とその治療Ⅱ

科目コード

CQ4167



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R	3年以上	高野 毅久

※この科目は、2018年度以降に入学した福祉心理学科の方のみ履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

「精神疾患とその治療Ⅰ」の項をご参照ください。

■到達目標

「精神疾患とその治療Ⅰ」の項をご参照ください。

■教科書（「精神疾患とその治療Ⅰ」と共通）

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 精神保健福祉士養成講座Ⅰ 精神医学と精神医療』中央法規出版、2021年

（最近の教科書変更時期）2023年4月

※「精神疾患とその治療Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

「精神疾患とその治療Ⅰ」の項をご参照ください。

■科目評価基準

レポート評価60%＋科目修了試験40%

■参考図書

「精神疾患とその治療Ⅰ」の項をご参照ください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

「精神疾患とその治療Ⅰ」の項をご参照ください。

■レポート課題

1 単位め	統合失調症、気分障害、認知症におけるそれぞれの病型、症状、経過、予後、検査、治療について、診察の手順を踏まえながら論述せよ。
2 単位め	「TFUオンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2022年度以前履修登録者) 2023年4月よりレポート課題の1単位めが一部変更になりました。『レポート課題集2022』記載の課題でも2024年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

1単位め アドバイス

精神疾患の原因は、その大半が未だ不明です。また、原因がわかっていると考えられる認知症でも、脳の障害から精神症状のすべてを説明することは出来ません。このような疾患に対して、精神医学は、身体医学とはちがった独特の診断法として、外因/内因/心因といった分類を考え、診断に外因性⇒内因性⇒心因性という順序＝構造を与えました。ICDやDSMといった現行の操作的診断法は、この構造を廃して、すべての精神障害を一覧表のごとく同一平面上に並べましたが、操作的診断法を把握し実施するのにも、従来診断法は有用です。直接的には、教科書の第1章、第2章に書かれていますが、実際に自分が、ひとりの患者さんを目の前にしている場面を想定し、統合失調症、気分障害、認知症についてまとめてみることで、知識が立体化し、診断から治療やリハビリテーションの方向性までが、一貫したパースペクティブで見えてくると思います。

2単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFUオンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

科目修了試験

■評価基準

「精神疾患とその治療Ⅰ」の項をご参照ください。